

インタビュー

芝浦機械(株)
常務執行役員 制御機械カンパニー長

伊藤 雅文氏



伊藤 雅文氏は、芝浦機械(株)の常務執行役員、制御機械カンパニー長の伊藤雅文氏にロボット分野の取り組みを

中心に伺った。
——ロボット分野の市況について。
伊藤 近年、ロボット市場は拡大傾向にあり、

双腕協働ロボットの提案を強化

とは。

当社のロボット事業も成長してきたが、2023年度を含めた直近は中国での投資が3C(コンピュータ、家電製品、通信機器)分野を中心に停滞しており、当社のロボット製品の需要も弱含んでいる。だが、中国以外の地域では底堅く推移しており、分野別では工場内物流

伊藤 システムエンジニアリングに関する体制を全社ベースで強化している。その一環として、生産設備・システム設計に強みを有するボックマシ(愛知県岩倉市)を3月にグループ化し、4月に商号をテクノリンク(株)に変更した。テクノリンクはロボットシステムに関してもノウハウを有し、ロボットのシステムエンジニアリングにつ

腰1軸の計9軸を展開しており、両タイプとも可搬質量は片腕6kg(両腕10kg)で、両腕把持+旋回で省スペース化を実現できる。RIDRS-Hは、ヒト型であるため、人が行っていた動作を再現でき、腰軸に2軸(回転と屈曲がある)ことで、両腕で把持したままの振り返り作業などでもでき

る。RIDRS-Sは、従来のスカラロボット動作に加え、腰軸の回転によって狭いスペースで両腕を使用した組立や搬送作業に適している。また、RIDRSシリーズの専門組織も構築し、様々なソリューションを提案している。

伊藤 自動車の組立や工場内物流関連を中心に引き継いでいる。RIDRSシリーズの受注・販売状況は、伊藤 自動車関連や工場内物流関連を中心に引き継いでいる。

伊藤 研究開発部門において、AMR(自律走行搬送ロボット)などの搬送系ロボットや、自律型ロボットの新しい制御構造「従属アーキテクチャ」の開発を進めている。従属アーキテクチャは、東京大学、東洋大学、静岡大学とともに、NEDOのプロジェクトにおいて開発した技術で、腕

伊藤 ロボット製品を含む制御機械カンパニー

向けなどが堅調に推移している。また、ロボット単体での販売に加え、システムやソリューションとして提案する取り組みを強化しており、需要が拡大している工場内物流向けでは「ロジロボシリーズ」として標準化し、パレタイジング/デパレタイジングや段ボール梱包などで実績を積み上げている。

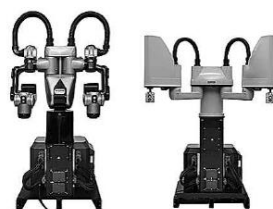
伊藤 双腕協働ロボット「RIDRS(ライダース)シリーズ」の本格的な販売活動を23年後半から開始した。ヒト型の「RIDRS-H」(片腕7軸、腰2軸の計16軸)と、スカラ型の「RIDRS-S」(片腕4軸、

と走行機能を備えた自律移動ロボットに手先(または手の操作対象物)の目標姿勢を粗く与えれば、自身や周囲との接触や干渉を防ぎつつ、走行と腕を運動させる安全かつ複雑な動作を、学習なしで本能的に生成でき、従属アーキテクチャを組み込んだ自律ロボットは、簡単な作業指示や教示に対して、より複雑な生産の付随作業を実行することが可能となる。

伊藤 今後の方針を。

伊藤 ロボット製品を含む制御機械カンパニー

伊藤 今後の方針を。



RIDRS
Robot Intelligence Dynamics Regeneration System

では、中国などの主力市場における取り組みを今後も積極的に進めていくとともに、テクノリンクとの連携強化などを含め、省人化・省力化につながるシステムエンジニアリングによる付加価値の向上に取り組みしていきたい。こうした付加価値の向上には、ベースとなるロボット製品の開発も必須であり、先に述べたRIDRSシリーズのように新たな製品についてもこれまで以上に開発を強化していく。また、当社は、射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機、工作機械など様々な産業用機械を展開しており、こうした製品とロボット製品を組み合わせた総合力でお客様の自動化を支援していきたいと思う。

伊藤 聞き手・副編集長 浮島哲志